

# 祈りの絆

連盟の被災地支援に関する情報は、連盟ホームページをご覧ください。http://www.bapren.jp/

お祈りください

1. APBAid のカピ牧師が緊急で心臓の手術をされました。一日も早く回復されますように。
2. 被災地の復興のめどが立つように。
3. 原発事故が早期に収束するように。
4. 冬の寒さの中での被災地の方々の健康が守られますように。
5. 募金目標が達成されますように。

## ◆クリスマスの報告

**野田村仮設**(北海道、青森右手チーム) 12月7日、お茶会とハンドベル演奏、ミニキャロリング。**安渡小学校仮設**(盛岡教会) 12月24日、お茶会とクリスマス劇。**宮前仮設**(仙台北教会) 12月1日、クリスマスコンサート。**牡鹿半島**(宮城チーム) 12月1日、メッセージカードとシクラメン配布、お茶会。**緑が丘仮設**(郡山コスモス通の教会) 12月17日、クリスマス祝会、12月23日、キャロリング。それぞれのチームが遣わされている仮設団地でクリスマスの集会を行うことができました。これらのクリスマス集会を覚えて全国の諸教会・伝道所より、ほかほかカイロやキャンディ、手作りマドレーヌ、クリスマスカード、手作りの小物などを、西南学院高校家庭科クラブからは、**宮前仮設と緑ヶ丘仮設**に手作りクッキーを、富士吉田教会経由でアメリカの子どもたちから手作りのクリスマスカードなどを送りいただきました。ありがとうございます。どの集会所でもクリスマスメッセー지를させていただき、クリスマスの賛美歌を歌うことができました。また、たくさんプレゼントをお届けすることができ、改めて震災から今までの皆さまのお祈りと献げものによる支援、そして直接出かけて行く現地の教会の支援活動が組み合わされ、寄り添いの業になってきたことを思われます。支援活動を通していつも伴走者としてのイエスさまの香りが伝わり、皆さまのとりなしの祈りが支援活動をしている教会の力となっています。なんとかして、主のご降誕の喜びをお伝えしたい、その思いを主が導いてくださり本当に感謝で一杯です。

## ◆募金のお願い

震災から1年10ヶ月。家を建てて引越しをされる方と仮設に残る方、先のめどが立つ方と立たない方、津波被災地も原発事故被災地も再び、住んでおられる方々の分断が始まりました。孤独死、自死、様々な課題が見えてきています。

今年の冬も厳しい寒さの中、半纏(はんてん)を2枚着て、洋服を5枚ほど重ね着をしておられる方も珍しくありません。電気代を節約して貯蓄し、いつの日か仮設を出なければならぬ日がくるからです。津波被災地は、土地のかさ上げ、防潮堤の整備等が遅れてまだ復興住宅建築が追いつきません。原発事故被災地では、

いつ帰宅できるのかめどが立たないばかりか、余震が続き、第一原発4号機の不安が募るっています。また、今年11月より燃料棒の取り出しも始まる予定で、緊張を隠すことができません。仮設に住んでおられる方々のストレスは貯まるばかり。手もみの奉仕をしようと、どの方も肩こりがひどくなり、膝や腰の痛みを訴える方が増え、脚力も弱っておられます。福島県内の子どもたちは、深刻な運動不足による肥満度増加、子どもたちの健康不安増加など心配はつきません。どの地区もまだまだ支援を必要としています。東北の諸教会・伝道所の方々が、次年度も安心して支援活動を行うことができますようにどうぞ、これからもお祈りください。また、ぜひ、募金をよろしく願っています。今、まだ支援をゆるめるわけにはいかないのです。どうぞよろしく願っています。

## ◆遠野ボランティアセンター便り

今年のクリスマスは、金子千嘉世現地支援担当、佐藤浩主事・有子夫妻の3人で**小錠第7仮設**と**小錠第4仮設**でクリスマスお茶っこをしました。それぞれの仮設で、ビンゴ大会、クリスマスソングの合唱、手もみ、クリスマスのお話をし、大いに盛り上がりました。また、お茶っこに來れない方のために、やはりそれぞれの仮設でクリスマスプレゼントの配布、また西南学院大学から送られたクリスマスカードを届けました。

さて、年末から年始にかけて岩手県は寒気に覆われました。特に1月2、3日にかけて、普段はあまり雪の降らない沿岸被災地にも雪が積もりました。この時期は身体の弱ってきているお年寄りにはたいへんな季節です。あちらこちらの仮設で、お年寄りが倒れたという話を耳にします。**小錠第4仮設**の方も気温が0℃前後に



小錠第4仮設  
クリスマスお茶っこ



小錠第7仮設クリスマスお茶っこ

なり始めた11月のある日曜日朝に倒れ、県立釜石病院に入院されました。心臓に持病を持ち不整脈の治療を受けていた方です。幸い大事に至ることなく、今ではすっかり元気になられ、「せっかく助かった命だから、まだ生きてやるぞ」と話す姿に私たちが勇気をいただきました。

最近、少しずつこのような前向きな言葉を多く聞く事ができるようになったように思います。そしてやっと、復興が始まったのかな、と思われています。しかし、人によって心の復興度合は様々です。また、「復興が始まった」は「復興した」とを意味しません。是非これからも被災地を忘れず、ご支援をよろしく願っています。

(遠野ボランティアセンター主事 佐藤浩)

### 東日本大震災被災地支援委員会原発課題班コラム

#### 原子力発電所と放射能について知っておきたいこと⑧

『年間5ミリシーベルト=毎時0.6マイクロシーベルト』

原子力発電など放射線従事労働によって白血病を発症した場合の労働災害認定基準は、年間5ミリシーベルトです。過去に6人の方が認定され、そのもっとも低い値の方の被ばく線量は、年間5.2ミリシーベルトでした。この年間5ミリシーベルトは、毎時0.6マイクロシーベルトとおおよそ同じです。このことから、レントゲン室などの放射線管理区域は毎時0.6マイクロシーベルトを労働環境の上限と定められています。労働基準法62条2項は、18歳未満の労働者への「有害放射性物質を発散する場所」での就業制限も規定しています。福島に住む人たちの厳しい環境が分かります。

東電福島原発事故処理において年間5ミリシーベルトが守られていないことは周知の事実です。雇用する側の管理責任の問題です。それと同時に、ここで労働者の側が非常に弱い立場に置かれていることにも思いを馳せたいのです。法定受忍限度の累積5ミリになってしまったら仕事を奪われてしまうという恐怖から、より多くの放射線を浴びても黙っておくことを選択せざるをえない労働者もいるということです。

この構造的問題は、3.11以前にもずっと続いて存在していました。日本には登録しているだけでも40万人の「被ばく労働者」がいます。多くの人たちが経済的な弱さから、その仕事に従事させられるように仕向けられています。原子力発電は、たとえ事故がなくても、このような下請け、孫請け、極端な場合には第七次下請けの労働者たちの被ばくという犠牲がなければ成り立ちません。誰かの犠牲の上に成り立つ繁栄、平和は、99匹を置いてでも1匹の羊を探しにゆくキリストの平和に反するものです。

原発課題班(濱野道雄)

## 東日本大震災被災地支援募金にご協力ください

すべての支援活動は、募金によって支えられています。

|            |        |             |             |
|------------|--------|-------------|-------------|
| ◇2012年度目標額 | 2000万円 | ◇4~12月支援募金額 | 13,071,191円 |
|            |        | (内訳)国内分     | 10,360,343円 |
|            |        | (内訳)国外分     | 2,710,848円  |

上記の他に指定(主に海外から)募金15,211,426円があり、指定された用途に用いられます。

お祈りとご協力に心から感謝申し上げます。

送金先:郵便振替00140-9-180881 宗教法人日本バプテスト連盟総務部

※「大震災被災地支援募金」と明記してください。※募金は極力、教会単位でご送金ください。

海外からの募金は別口座になります。総務部までお問い合わせください。